

2018. 9/4-5 日本仏教学会（同朋大学） 発表者：藤本 晃（広島大学紹介）

日本仏教に悟りはあるか？（発表要旨）

釈尊の時代の仏教からずいぶん変容したように見える日本仏教は、正しく仏教だと言えるだろうか。日本仏教に法と僧が正しく伝わっているかどうかを検証したい。

◎僧（比丘サンガ）は日本に伝わったか：

○部派分裂は破和合僧

明確な記録を唯一残す上座部によると、上座部だけが部派分裂⇒破和合僧していない比丘サンガである。

○日本には分裂した部派と大乘だけが伝わった

西域から中国を経て日本に伝わった北伝仏教の流れには、上座部の形跡は見られない。

しかし、分裂した諸部派の所属ながら律蔵だけは中国に、そして日本に伝えられた。

○部派分裂によって経と律はどれだけ崩れたか

部派分裂の事情などは付録されていないが、諸部派の律蔵は、少なくともその主な部分はお互いにまったく違いなく伝えられている。

法（教え）については、少なからぬ相違が見られる。ただ、合致の程度は少なくない。

○破和合僧と部派分裂の効力

スリランカの事例から推測する。その「サンガ」が破和合僧⇒部派分裂したグループだと知らずに出家していた者たちは、破和合僧の罪を負っていない。出家のように生活していた在家修行者で、罪はなく、悟りへの道は途絶えていない。

○出家と在家の違い

直前の議論は、「在家阿羅漢はあり得るか？」という仏教学界の古い問いに共通する。答えは、「在家でも阿羅漢まで悟れる」であろう。ここでは釈尊の時代の事例を挙げる。

◎法は日本に伝わったか：

○教義は日本に正しく伝わったか

○悟りに至る修行法は日本に正しく伝わったか

最初期に漢訳された経典の中に仏教独自のヴィパッサナー（観）瞑想の修行法に関するものが含まれているのは、中国に、そして日本に悟りに至る道が正しく伝わった可能性を示唆する。安世高が訳した『安般守意経』である。

◎日本仏教に悟りはあるか：

○公案は悟りの暗号

○道元

日本仏教に悟りはある。正式な比丘サンガはない。教えは少し曖昧。

今後はどうなるだろうか。悟りと悟りに至る実践がある限り日本仏教は存続するだろう。

※キーワード： 部派分裂、在家阿羅漢、ヴィパッサナー